



フィリピン共和国 Republic of the Philippines



たばこ産業の特徴

1. 年間710億本の市場である(2001年)。
2. メンソール製品が62～65%を占める世界最大のメンソール・シガレット市場である。
3. 消費量の60%がバラ売りという特異市場である。
4. 宣伝広告等は比較的規制が少なかったが、2007年を境に規制が厳しくなる。
5. Fortune Tobacco社 の市場支配力が強いが(シェア55%)、Philip Morris は新工場を建設しASEAN諸国向け製品の製造を開始した。
6. Philip Morrisはフィリピンを葉たばこの世界の生産基地にしようとしている。

[1] 法規制等

警告文等：

シガレット個装の側面に3種の警告文から1種を選んで記載する。

TN表示の義務はない。

包かに成分表示の義務。

2006年7月1日からパッケージの表面の30%に健康注意表示を載せなければならなくなる。

警告はローテーションで、フィリピン語あるいは英語のどちらかでシガレット・ボックスの目立つ所に健康注意表示をしなければならない。

喫煙場所規制：

病院、学校、公共輸送機関などの公共の場所での喫煙は禁止された。

公共の場所での喫煙は、分離あるいは囲われた部屋でのみ許される。

広告規制：

テレビ、ラジオでのたばこの広告は次第に禁止され2007年7月1日までに完全禁止される。

映画や屋外広告は2007年7月1日から完全に禁止。

学校から100メートル以内ではたばこの広告禁止。

印刷物によるシガレット販売促進と広告には、広告スペースの全面積の少なくとも30%を注意表示が占めなければならない。

販売促進活動：

自動販売機は規制。未成年への販売禁止。

サンプリングは禁止。

2008年7月1日からはスポーツ、文化、教育プログラムにたばこ会社のスポンサーシップは完全に禁止される。

販売規制：

シガレットや他のたばこ製品の最低販売年齢が決められた。

18歳未満の未成年者の喫煙禁止と罰則を定め、違反したシガレット・ベンダーや流通販売業者も30日から3年の懲役と500～40万ルピーの罰金、営業免許の取り消しがされる。

[2] 税制

封緘紙による課税制度になっている。シガレット製造には許可が必要。セグメントにより5%～40%と税率が異なる従価税方式でシガレットに課税。高級品ほど税金が高い。

税率	物品税	: 0.40～13.44 Local Currency Unite (小売価格に基づく包か当たり)
	販売税	: 10%
	輸入関税	: 7%
	その他輸入税	: 250 Local Currency Unite + 0.1 LCU/1000本当たり検査料金

[3] 喫煙者プロフィール

アジアの標準から見ると、消費本数は少なく、1日当たり15本である。90%の喫煙者は「サリ・サリ」と呼ばれる日常雑貨店から購入する。

低所得者はバラ買いが多い。

成人喫煙率(15～74歳、2001年)

男性	50.6%
女性	8%
全体	23.5%

[4] 市場概況

- ・ フィリピンのシガレット市場は2001年で710億本。世界最大のメンソール・シガレット市場である。
- ・ シガレット市場は、今後短期的には毎年2～3%の範囲でマイナス成長になると予想されている。
原因は経済不安にあると言われている。
フィリピン人の40%が貧苦ライン以下であり、アジア経済危機の影響も受けている。
- ・ 消費量の60%以上がバラ売りであり、安い偽造あるいは密輸シガレットの消費に向かうかもしれないと心配されている。
販売されている物のうち20%は密輸シガレットであると推定されている。
- ・ 近年、プレステージとポピュラー・セクターが落ちて、プレミアム・ブランドとバリュー・ブランドの2極化が進んでいると言われている。
国際ブランドのシェアは1999年の22%から2001年には24%に伸びている。

シガレット統計データ (単位 100万本)

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
消費数量	71,620	72,665	81,119	84,000	87,100
製造数量	68,620	73,156	79,000	81,000	84,000

(消費数量は見かけ上の数字、出典：USDA)

[5] 製品プロフィール

- ・ メンソール製品が市場の62～65%以上を占めている特異市場である。
- ・ 伝統的な黒たばこの人気は衰え、アメリカンブレンドが圧倒的な人気を占めつつある。
- ・ アメリカンブレンド製品の伸びはフィルター製品の伸びをも意味している。
63%がバラ売りであるために、フィリピンはソフト包装市場である。
- ・ フィリピン市場は4つのセグメントに分かれる。
 - * プレステージ・セグメント：1包か20ペソ (0.6ドル) のもの (Marlboro 100s等)。
 - * プレミアム・セグメント：1包か15ペソ (0.45ドル) ～20ペソのもの (Marlboro、Winston、Hope等)。
 - * ポピュラーブランド・セグメント：1包か12ペソ (0.36ドル) のもの (More等)。
 - * ボトム・セグメント：1包か10ペソ (0.30ドル) 以下のもの (Champion等)。

製品の小売り価格

国産ブランド 0.47USドル
外国ブランド 0.66USドル
(出典 EIU 2002/9)

ブランド別マーケットシェア (00年)

Champion (Fortune社)	23.80%
Marlboro (PMI)	15.90%
Hope (Fortune社)	12.40%
Fortune International (Fortune社)	11.00%
Winston (JTI)	10.80%

[6] 小売り流通 (密輸対策)

小売店はフィリピン全土で30万店、マニラ首都圏だけで4万店あり、店の選択がメーカーにとって大切である。
販売されているシガレットの20%は密輸シガレットであると推定されている。
包かでも買ってバラでも買って値段はほとんど同じであり、特にマニラ首都圏ではバラ買いが多い。
「サリ・サリ」の店主は卸売りやスーパーマーケットからカートンでシガレットを購入してバラ売りをしている。
ハンギングベンダーは足の早いWinston、Hope、Marlboro、Philip Morris 100sしか扱っていない。

[7] メーカー概要

国内企業のFortune Tobacco社の製品がシェアの55%を占めている。
2位はPMI(25%)、3位はJTI(12%)。Sterling Tobacco社は5%。(2001年)

Fortune Tobacco Corporation :

国内シガレット市場の55%のシェアを占める支配的企業。
RJR とライセンス協定を結び、Winston、More、Camelなどを製造していた。
国産主要銘柄としてはChampion、Hope、La Campana、Boss、Peak、Fortune がある。
Philip Morrisの東南アジアでのマーケティング計画に対抗して、Fortune社も拡大計画を策定中。

La Suerte Cigar and Cigarette Factory :

市場第2位の企業。
Philip Morris社と1955年以来ライセンス協定を結び、Marlboro、Philip Morris Mentholなどを製造。
国産銘柄としてはGolden Key、Forbes Extra、Aspen、Brixtonなどがある。

Philip Morris :

1955年以来45年間、地元のLa Suerte社にMarlboroとPhilip Morrisをアンダーライセンスで製造委託していたが、フィリピン市場の拡大やASEANへの輸出拡大をにらみ、2003年5月8日にルソン島パタンガス州の工業団地に新工場を完成した。

この工場はアジアでは最新の工場であり、東南アジアのハブ工場になる。フィリピン第1工業団地に25ヘクタールの敷地を使っている。

当面製品はタイ向けに輸出されるが、その後アジア諸国へも輸出する。
当面年産300億本、最終的には400億本を予定。建設投資額は3億ドル。

MarlboroとPhilip Morrisを製造する。

新工場はPhilip Morris Philippinesが80%を所有し、La Suerte Cigar & Cigarette Factoryが20%を所有する。

新工場での製造用原料のかなりの部分をフィリピン国内から調達する予定。

葉たばこ品質改善のために農民を指導し、将来、Philip Morrisはフィリピンを世界の葉たばこ供給源にしようとしている。

Philip Morrisのシェアは25%。

JTI :

前身のRJRIは1972年にFortune Tobacco社とライセンス契約を結び、製造、流通、販売を行ってきた。RJRIの買収により業務を引き継いでいる。シェアは12%。

BAT:

代表者事務所をマニラに開設し、Lucky Strikeを発売してフィリピンへ再参入した。

Stering Tobacco :

Sampoerna社とライセンス契約を結んでいる。シェアは5%。

[8] 葉たばこ概況

フィリピンは葉巻用に高い評価を受けているマニラ葉の生産国である。

80の州のうち20州が葉たばこを耕作している。ドイツとオーストリアへかなりの葉巻原料葉たばこを輸出している。

耕作地は20万エーカー。

耕作農民は30万人。

2002年の黄色種の生産量は36,000トン、バーレー葉は16,300トン、ダークエアキュアード葉は9,500トン、トータルの生産量は2000年レベルと推定されている。

葉たばこ生産データ (単位 トン)

	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年
生産数量	54,857	61,664	67,045	75,189	68,300
輸出数量	14,030	11,371	14,881	8,198	7,700
輸入数量	22,951	17,590	27,482	25,817	26,200

[9] 展望

国際ブランドは伸びているが、フィリピン市場全体の消費本数は年間数パーセントずつ減っており、経済的不安定さを考えると、世界第13位の市場の今後を予測することは少々困難である。